広報 なは 市民の友

第609号　毎月1回発行
2001年（平成13年）
10月

発行●那覇市　編集●秘書広報課
〒900-8585　那覇市泉崎1丁目1番1号
☎ 867-0111　●印刷 ㈱ 池宮商会

みんなでさくら
…ラジオ広報…
「那覇市民の時間」毎週日曜日
ROK・午前11時45分から55分まで

那覇市ホームページ
http://www.city.naha.okinawa.jp/

「災害に強い那覇市」をめざして

きびきびと総合防災訓練を展開

「訓練、訓練。こちらは市の広報マイクです。先ほどの地震は震度5強。只今、津波警報が発令されました。海岸地域の方はすみやかに避難してください」。市、那覇警察署、市消防団、近隣の保育所など11の機関・団体が連携して行われた「那覇市総合防災訓練」。ただちに沿岸の若狭市営住宅で避難を開始。主会場の天久新都心防災公園では市婦人防火クラブがバケツリレーで初期消火。緊急出動した市消防本部による倒壊家屋や事故車両、ビルからの救出活動。がれきの中から負傷者を発見する災害救助犬。自衛隊の哨戒機とヘリによる被害状況の確認、土のう構築などの訓練が展開されました。

市ではこれからも市民のみなさんや関係機関といっしょに常日頃から危機意識を持って防災に備え、「災害に強い那覇市」をめざしていきます。

主な紙面

（2面）なは・ゼロエミッションのまちづくり
（3面）敬老の日「慶祝訪問」市内38名が新百歳
（4面）市民への窓口業務が広がります。
（5面）第5回那覇の景観資源
（6面）市職員の給与等のあらまし
（7面）情報ＰＡＣＫ

世界遺産の周辺から

那覇の文化財④

市指定無形民俗文化財
字国場のウズンビーラ

特別名勝の識名園には、勧耕台という展望台があります。

ここからは、島尻一帯を臨むことができますが、海抜約八〇mもあるのに、まったく海が見えません。

勧耕台からの眺めは、中国からやってきた冊封使たちの故郷の風景に似ていたといわれ、しかも海の見えない場所を選んで、暗に国土を広く見せたと伝えられています。

しかし、それだけでは、一八三八（道光一八）年、尚育王の冊封正使として渡来した林鴻年が、この場所を勧耕台とは名付けなかったことでしょう。

当時、君主たるものは、民衆の暮らしに思いを寄せ、その安らかな暮らしのためにこそ、心を砕くべきであるという、儒教の考え方が浸透していました。そこで、このような展望台から、人々に思いを寄せる尚育王をたたえ、その思いに応え、人々が立派に田畑を手入れし、豊かな国がつくられていることに、林鴻年は感動したのでした。

その昔、農事奨励のために、国王の御前で水田の畔の塗り立て競争が行われました。その競技場を臨む、国王の観覧場所には、「御桟敷毛（うさんしちもう）」という地名が残されていました。その場所は、現在の市民体育館の辺りだといわれています。

さすがに国王の御前での試合だけあって、勝った時の喜びは、一入（ひとしお）であったようです。畔づくりに用いるウズンビーラという農具を手に、泥だらけのまま、狂喜乱舞しながら村へ帰っていったようです。

その有り様が、そのまま民俗芸能となって、字上間、字識名、字仲井真、字津嘉山（南風原町）、字外間（東風平町）などに伝えられていましたが、毎年定期的に行われていたものではなかったために、今日では字国場にだけ残されています。

三〇人単位の男たちが、ドラの音に合わせて整然と踊る様は、実に見事で、「遊（あし）びぬ美（ちゅ）らさや人数（にんじゅ）の備（すな）わい」とは、正にこのことだと、思わず膝を打ってしまいます。

（那覇市教育委員会 文化財課）